鍼灸で健やかに！ 16

登美ケ丘治療院院長
野口（のぐち） 創（そう）

4タイプに分け治療

月経前症候群と鍼灸・漢方薬治療

月経前になると、「胸が張ってくる」「下腹部に痛みを感じる」といった身体的な症状や、あるいは「怒りっぽくなる」「理由もなく悲しくなる」というような精神的な症状は、女性の約80%の方が経験している。

このような排卵から月経開始までの時期に現れる身体的・精神的不快症状を月経前症候群（PMS）という。PMSの治療は、現代医学では、ホルモンバランスの失調に対し、ピル、抗うつ薬、抗不安剤等を使用する。

さらに下腹部痛や腰痛には抗炎症薬、鎮痛・解熱剤を、乳房が張って痛む症状には、ブロモクリプチン等を使用する。

このような対処療法以外に、食事療法を用いる場合もある。中国医学ではPMSを「経前情志失調」という。体内の臓器、血液、体液やリンパ液を含むすべてのバランスの失調が、PMSの原因と中国医学では考えているが、特に身体の肝腎要である腎臓、肝臓、さらに脾臓などの内臓の活力エネルギーの低下が顕著な場合に起こる。

臨床では、問診で詳しく症状を診断し、以下のようなタイプに分別し、それぞれのタイプに合わせた鍼灸・漢方薬治療を行うことで、内分泌のバランスや各臓器の働きが改善され、副作用もなく、つらいPMS症状を根本的に軽減することができる。

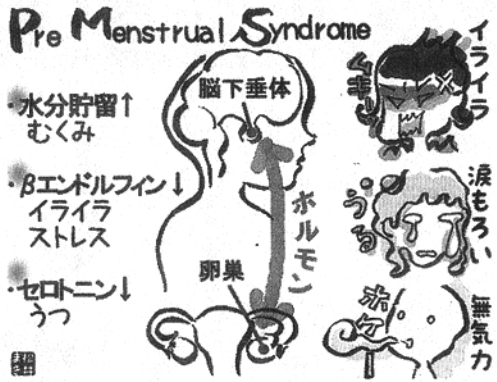
◎肝気鬱結型＝イライラ・怒りっぽい・ため息が多い・食欲亢進・月経不順・月経痛・経血に血の塊がある・乳房の張り・下腹部が張る・咽頭部の閉塞感等。

◎肝腎陰虚型＝腰や膝の重だるい・眼が乾く・顔・手足がほてる・眩暈（めまい）・喉の渇き・耳鳴・不眠・寝汗・経血量が少ない・便秘等。

◎脾腎陽虚型＝腰や膝の冷え、下痢・腹部膨満感・むくみやすい・寒がり・倦怠感・疲労しやすい・経血量多く色が薄い等。

◎瘀血型＝下腹部痛・胃痛・頭痛・唇が青紫色・月経不順・月経痛・不正出血・経血色暗紫・経血に血の塊がある・子宮筋腫等。

◎気血両虚型＝眩暈・無気力・脱力感・息切れ・唇や爪の色が淡い・汗が多い・動悸・不眠・四肢のだるさ・経血量少、月経後の下腹痛や頭痛等。



■ 野口創氏の略歴 ■

1992年 鍼師、灸師、按摩・マッサージ・指圧師の免許取得。カナダ（トロント）指圧クリニックで研修・勤務。
1994年 中国、北京中医薬大学に留学。北京中医薬大学付属病院や中日友好病院で研修。中国南陽市張仲景国医大学で李世珍教授に師事。
1998年 登美ケ丘治療院開設。
※中国語、英語対応

登美ケ丘治療院
奈良市中登美ケ丘6の1の1
（学研奈良登美ケ丘駅）
▶電話・ファクス
0742（48）5556
▶ホームページ
http://www.tomigaoka.com/